

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 6 週(2 月 2 週 2/6 ~ 2/12)

平成 18 年 2 月報合併号

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

- ・感染症流行状況
 - ・定点医療機関コメント
 - ・全数把握感染症
 - ・平成 18 年 2 月報
 - ・病原体検査情報
 - ・感染症だより(1 月後半 / 2 月前半)
 - ・WHO 疫学週報
 - ・五類定点把握感染症患者報告数
- 平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報
(平成 18 年 2 月 15 日現在)
- 2006 年 2 月 3 日(81 巻 5 号)
2006 年 2 月 10 日(81 巻 6 号)
- (保健所別、年齢別)

感染症流行状況

注意する感染症「インフルエンザ」

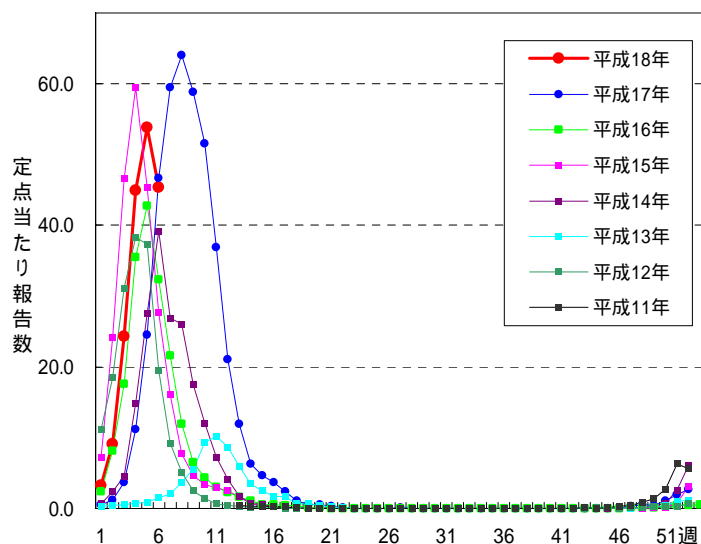
インフルエンザは現在流行中ですが、患者発生数はピークを過ぎ、1 定点当たりの報告数は 45.3 人と前週の 84% に減少しました。

なお、前週に引き続いて、インフルエンザ流行発生警報^{*1}が発令中です(次ページ参照)。

うがいや手洗いの励行など、感染予防に心がけ、発熱等の症状が出た時は早めに医療機関を受診してください。

^{*1} 注意報・警報について

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムでは、インフルエンザの流行発生注意報は保健所(市) 定点当たり 10 人を越えた場合に、また、流行発生警報は 30 人を越えた場合に発生し、10 人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。



その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。
愛知県におけるインフルエンザの流行逐次予測について

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)

インフルエンザウイルス分離状況(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/0506infbunri.html>)

インフルエンザ関連情報リンク集(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)

インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

	6 週	定点 当たり	5 週	定点 当たり		6 週	定点 当たり	5 週	定点 当たり
名古屋市	1,687	24.1	2,188	31.3	知多	492	70.3	476	68.0
瀬戸	344	38.2	563	62.6	岡崎市	613	55.7	778	70.7
津島	364	52.0	480	68.6	衣浦東部	1,071	82.4	1,256	96.6
師勝	204	51.0	239	59.8	西尾	353	70.6	341	68.2
一宮	493	30.8	588	36.8	豊田市	878	97.6	1,176	130.7
春日井	680	75.6	692	76.9	豊橋市	560	46.7	600	50.0
江南	265	44.2	312	52.0	豊川	345	38.3	400	44.4
半田	426	71.0	338	56.3	新城	67	33.5	74	37.0

は今週警報が出ている保健所(市)です。
は今週注意報が出ている保健所(市)です。

集団かぜの患者発生状況について (2月15日午後3時現在)

	県		名古屋市		豊橋市		岡崎市		豊田市		合 計	
	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数	患者数	欠席者数
2/15現在	4,460	2,786	697	453	453	264			1,178	754	6,788	4,257
前年同期	2,054	1,285	1,354	888	100	65			242	140	3,750	2,378

注1 県には名古屋市、豊橋市、岡崎市及び豊田市の患者数及び欠席者数を除く。

2 患者数、欠席者数は、学級閉鎖等防疫措置を実施したものについて計上

3 欠席者数は、患者数のうち欠席した者を再掲として計上

集団かぜの発生等についての詳細はネットあいちの記者発表資料をご参照下さい。
記者発表資料 (<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>)

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

インフルエンザ 45 人 症状から判断した 2 人を除いてすべて A 型 半分はワクチン接種者

手足口病が 4 人ありました。

【一宮市 あさのこどもクリニック】
インフルエンザはすべて A 型です。

【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌 O18 5 歳女
インフルエンザ B 1 人

【一宮市 城後小児科】
インフルエンザ 32 名は全て A 型で、1 名(8 歳女)は今期 2 回目(11 月と)です。

【一宮市 平谷小児科】
この一週間でインフルエンザ(+) 171 人 すべて A 型 発生数は前週より微減

【一宮市 一宮市立市民病院】

1 月 25 日キャピリアで A 型強陽性の 5 歳女が、2 月 10 日再度高熱で A 型強陽性でした。型か株が異なるものと思いますが、ピークが 2 つになる可能性はどうでしょうか。

【犬山市 武内医院】
インフルエンザ全て A 型 98 例(ワクチン接種者 40 例 41.2%)

2 回 A 型感染例 2 例あり。
H1N1 と H3N2 両方ともあるもよう。
溶連菌感染症も多発しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
インフルエンザ流行中です(すべて A 型。今シーズン A 型 2 回罹患 3 名ありました)。溶連菌感染症(16 名) 嘔吐を伴う感染性胃腸炎も増加しています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

インフルエンザはすべてA型です。
感染性胃腸炎はピークをすぎた感
じです。

【一宮市 医療法人かすが内科】
マイコプラズマ肺炎 5歳男
【稲沢市 野村整形外科】
インフルエンザB型 2名
【七宝町 医療法人村上医院】

インフルエンザワクチン 2回接種者が5
名発症しました。

【春日町 丹羽医院】
インフルエンザA型 47名
インフルエンザB型 1名 発生あり。流
行中です。
【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

A型インフルエンザの26%は予防接種
済です。

溶連菌感染症、水痘も多くみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】
インフルエンザ50例、全てA型でした。
マイコプラズマ感染症、アデノウイルス
感染症もみられています。

溶連菌感染症小流行続いています。

手足口病も1例ありました。

その他水痘、流行性耳下腺炎等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科】

A型インフルエンザ12名

【豊明市 豊明団地診療所】
インフルエンザAの流行が続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

インフルエンザA 54名

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザ97名A型のみです。

【半田市 半田市立半田病院】

インフルエンザ46名全てA型

【南知多町 医療法人大岩医院】

インフルエンザA型 39例

感染性胃腸炎続発中

【春日井市 朝宮こどもクリニック】
インフルエンザB型 1名(2/8) 他はす
べてA型

インフルエンザとロタが多い。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザは今がピークでしょうか。

【小牧市 志水こどもクリニック】

23歳男 アデノウイルス(+).

インフルエンザすこし減少した印象です。

【春日井市 竹内医院】

今週はインフルエンザすべてA型でした。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

5歳女、6歳女 今年2回目のインフルエ
ンザA型(+)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

インフルエンザすべてA型(内科・15歳
以上)

【東海市 東海市民病院】

西三河地区

インフルエンザ56名(全員A型)

5歳男2名、6歳女 StreptA(+)

11か月女、1歳男女 ロタウイルス

4歳男 病原大腸菌O1(+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

インフルエンザ66名

【豊田市 田中小児科医院】

インフルエンザは全例A型です。

アデノ(+)も散発中

【岡崎市 花田こどもクリニック】

インフルエンザワクチン接種率36%

マイコプラズマ肺炎 4歳女

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

2歳男 カンピロバクター

9か月女 病原性大腸菌O1 VT1(-)

インフルエンザはすべてA型

【岡崎市 にいのみ小児科】

FluA 37

Rota 2

【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザ定点(内科)分 検体数
635件のうち307件陽性(検出率48%) 全
てA型

【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】
インフルエンザワクチン接種歴のある罹
患者あり。

6歳(2回)1名、32歳(1回)1名

【安城市 鳥居医院】

インフルエンザA 90名

ロタウイルス陽性 5名

アデノウイルス陽性 3名

【知立市 宮谷クリニック】

インフルエンザはすべてA型(内ワクチン接種者 30%・内 1 名は今冬 2 回A型罹患)
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
インフルエンザA型 22 名(予防接種済 8 名)

【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
インフルエンザ全てA型 ピークは越した印象ですが、今季A型を 2 回罹患した児が若干名います。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザが流行中です。全てA型です。

【三好町 三好町民病院】

B 型 1 例。それ以外は全てA型インフルエンザです。

【幸田町 とみた小児科】

インフルエンザA13 名 4 名ワクチン接種

【西尾市 やすい小児科】

1 歳男病原性大腸菌O1 V T (-)

インフルエンザA型 97 人

今期初めてのB型 2 人(同一家族)

【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

インフルエンザ流行中
流行性耳下腺炎の児が時々います。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
ムンプスが流行中です。
インフルエンザA型はややピークを超えたような気がします。

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
インフルエンザはA型 114 名で、流行が続いています。

【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

インフルエンザやや減少(すべてA型)。
1 歳女 インフルエンザA 2 回かかりました(1月3日と2月6日) 3 人目です。
7 歳男 アデノ扁桃炎

【豊橋市 野村小児科】

O157 によるHUS 8 歳男

【豊川市 豊川市民病院】

12 歳男 タミフル服薬 3 回目で 37.3 「誰かが乗ってくる」と叫んでベッドより落下。その後も逃げるので家族がおさえた。30 分で回復、その間の健忘残している。

【蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院】

一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸チフス

< 関連リンク > 二類感染症

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-5>)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	衣浦東部	33	女	1 / 11	2 / 3	2 / 8	推定感染地域 インドネシア

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

後天性免疫不全症候群 1 例(無症候、推定感染地域:国内)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

A 型肝炎 1 例(推定感染地域:国内) 7 週報告分

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-3>)

1月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況

平成 17 年度に発生のおった疾病名 内は全数把握対象疾病数		平成 18 年 1 月			平成 17 年度 累 計 (愛知県)	内訳 (1 月)
		愛知県 (名古屋市を除く)	名古屋市	愛知県全体		
一類 感染症 7					発生報告無し	
二類 感染症 6	コレラ				1	
	細菌性赤痢				24 (2)	
	腸チフス				6	
	パラチフス				3	
三類 感染症 1	腸管出血性大腸菌 感染症	1 (1)	1	2 (1)	174 (45)	0157 2 件
四類 感染症 30	E 型肝炎	1		1	2	
	A 型肝炎		1	1	4	
	オウム病				5	
	つつが虫病				3	
	デング熱				3	
	ボツリヌス症				1	
	マラリア	1		1	8	熱帯熱 1 件
	レジオネラ症	2	1	3	21	
五類 感染症 14	アメーバ赤痢	1	3	4	37	
	ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型 肝炎を除く。)				3	
	急性脳炎及び (ウエストナイル脳炎及び 日本脳炎を除く。)				3	
	クロイツフェルト・ ヤコブ病	2		2	5	孤発性 2 件
	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	1		1	4	
	後天性免疫不全 症候群	1	4	5	64	無症候性 5 件
	ジアルジア症				1	
	先天性風しん症候群				1	
	梅毒	3	2	5	44	早期顕症 4 件 無症候 1 件
	破傷風				2	
	バンコマイシン耐性腸球菌 感染症				2	

()内は無症状病原体保有者

五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 18 年 1 月			平成 17 年 12 月		
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	91	32	123	100	32	132
2	性器ヘルペスウイルス感染症	26	5	31	27	8	35
3	尖 形 コ ン ジ ロ ー マ	21	11	32	21	8	29
4	淋 菌 感 染 症	81	35	116	56	42	98
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	66	8	74	74	10	84
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				2		2
7	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症						

上記の報告数は感染症月報指定届出機関(性感染症 : 51、基幹 : 13 医療機関)で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

病原体検査情報

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況(速報)

2006 年 2 月 15 日現在

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	286(207)	47(23)	84(2)	9	19(4)	32(10)	12(4)	211(190)
PV-1	2(2)	-	-	-	-	-	-	-
PV-2	2(2)	-	-	-	-	-	-	-
PV-3	2(1)	-	1	-	-	-	-	-
CV-A4	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A5	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A6	-	7	15	-	-	-	1	-
CV-A10	-	2	31	-	-	-	-	-
CV-A14	-	1	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	8(2)	-	-	-	1	-	-
EV-71	-	8(8)	-	-	-	1(1)	-	-
CV-A9	2(2)	-	-	-	-	1(1)	-	-
CV-B2	1(1)	-	1(1)	-	-	-	-	-
CV-B3	-	-	-	-	-	2	-	-
CV-B4	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
E-3	1	-	-	1	-	-	-	-
E-7	1	-	-	-	-	-	-	-
E-30	-	-	-	-	-	1	-	-
HPeV-1	6(1)	1	-	-	-	-	-	-
Flu.A(H1)	-	-	-	-	-	-	-	42(42)
Flu.A(H3)	-	-	-	-	-	-	-	88(73)
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	8(7)
Reo 2	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A	4	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G1	14(11)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G2	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	3	-	-	-	-	-	-	-
NV-G2	27(22)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	2(1)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	3(2)	1	-	-	-	-	-	-
Ad-3	2	-	-	4	2	-	-	-
Ad-4	-	-	-	-	2(1)	-	-	-
Ad-5	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-8	-	-	-	-	8(2)	-	-	-
Ad-37	-	-	-	-	2	-	-	-
Ad-41	7(5)	-	-	-	-	-	-	-
HSV-1	-	-	1	-	-	-	-	-
検査中	93(93)	5(5)	1(1)	-	-	-	-	60(60)
陰性	118(66)	14(8)	32	3	5(1)	25(7)	11(4)	13(8)

*注:()内に平成 17 年 10 月以降の患者数を再掲

平成 17 年度疾患別ウイルス検出状況速報(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

インフルエンザウイルス検出状況(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/0506infibunri.html>)

PV:ポリオウイルス

E:エコーウイルス

HPeV:ヒトパレコウイルス

Flu.A(H3): A 香港型インフルエンザウイルス

Reo 2: レオウイルス 2 型

NV-G2: ノロウイルス(遺伝子型 G2)

HSV: 単純ヘルペスウイルス

CV: コクサッキーウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

Flu.A(H1): A ソ連型インフルエンザウイルス

Flu.B : B 型インフルエンザウイルス

Rota A: A 群ロタウイルス

Ad: アデノウイルス

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

一日の仕事を終えて外に出てみるとまだ西の空が明るくて、日が長くなってきたことを思いがけなく実感したりするようになりました。いつも貴重な情報を有難うございます。1 月後半 / 2 月前半のまとめをお送りします（先週までのずれの後遺症で 2 か月にまたがったまとめです）。

1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはインフルエンザとロタウイルス腸炎が増加して重症の要入院例が目立ち、インフルエンザは殆どが A 型で B 型は少数、気道感染症は咽頭結膜熱、溶連菌感染症など多彩でクループ症候群が多くなりマイコプラズマ肺炎は相変わらず一定数入院、城北病院渡辺先生からはインフルエンザ増加、殆どが A 型でまだ B 型はなく、熱性痙攣者が多く、インフルエンザ様疾患の増加につれて気管支炎や肺炎患者も散見、RS ウイルス感染症はやや減少気味で最近川崎病の入院が目立つ、第二日赤岩佐先生からはロタ腸炎やインフルエンザ A の入院が目立ち川崎病の入院が多い、千種区今枝先生からはインフルエンザぼつぼつ、ウイルス性感染性胃腸炎ときどき、両者とも軽症、シンメトレル使用、三菱病院入山先生からは A 型インフルエンザ 22 名と目立ち、気管支炎や肺炎を合併して入院 8 名と多く、感染性胃腸炎では細菌性 7 名（病原性大腸菌 O18 が 3 名と O15、O146、O153、O6 が各 1 名で 3 名入院）、ロタウイルス性 5～6 名（脱水で 3 名入院）、A 群溶連菌感染症 3 名、急性気管支炎やマイコを含む肺炎の入院 6～7 名、咽頭アデノウイルス感染症で入院 1 名、労災病院山田先生からはインフルエンザ A（熱性痙攣の入院目立つ）、ロタウイルスとノロウイルス感染症の入院が目立ち、RS ウイルス感染症（細気管支炎）の入院目立ち溶連菌感染症とムンプスが長く川崎病の入院が 1 例（6 か月児）ありとのお手紙でした。

2) 尾張地区：犬山市武内先生からは A 群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎がそれぞれ散発中で A 型インフルエンザの多発が持続（1 月 25 日インフルエンザ A + B で A 型強陽性 5 歳女が 2 月 10 日再度高熱、A 型強陽性）、江南市昭和病院小児科からは A 型インフルエンザが目立ち入院例が多く、溶連菌感染症が目立ち、ロタウイルス性胃腸炎の入院が目立つ、常滑市民病院高橋先生からはインフルエンザ急増、1 月 30 日 B 型 1 名、のこりは全員 A 型、熱性痙攣の要入院例が目立ち、インフルエンザ入院例にまぎれてアデノウイルス扁桃炎の入院が 1 例、ロタウイルス感染症で入院あり、RS ウイルス感染症の入院もありとのお手紙でした。

3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザ A はそろそろおさまりそうで、熱性痙攣による入院目立つ、加茂病院梶田先生からはインフルエンザ A 増加、B はなく、病院全体で内科を含め A 陽性が 1 月 28 日に 54 / 103、1 月 29 日は 90 / 131、痙攣や肺炎、クループなどで入院著増、川崎病の入院 2 名、豊橋市長屋先生からは A 型インフルエンザ多発とのお手紙でした。有難うございました。

2006 年 2 月 3 日（81 巻 5 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8105/en/index.html>

鳥インフルエンザ。中国の近況：06 年 1 月 26 日、保健省発表。新規 H5N1 人感染確認例。29 歳女性。四川省成都。1 月 12 日発熱で発病、肺炎で 23 日死亡。穀物小売商。鶏との接触なし。詳細調査中。四川省の 2 例目。両者の居住地区は 150 km はなれている。昨年暮れから四川省では鶏の大量死が 1 事例あったがこれら 2 例の地区では発生なし。農業省発表では中国全土では 05 年に H5N1 養鶏場発生は 12 省で 32 事例、鶏死亡は 2400 万羽に及んでいるが今回のように鶏集団死のない地区の発生は注目される。WHO は鶏集団死のない地区でも、肺炎患者の H5N1 検査を勧告している。中国の累計患者数 10 例（死亡 7）。

鳥インフルエンザ。イラク：1 月 30 日保健省発表。同国初の人 H5N1 感染例。15 歳女。1 月 17 日重症呼吸障害で死亡。エジプト・カイロの米海軍研究所で H5N1 ウイルス陽性。看護した 39 歳の伯（叔）父が 1 月 24 日発病、27 日死亡。両例ともトルコ国境のスレーマニア居住。鶏の大量死が近隣で発生していて検査中。病児は病鶏と接触あり、伯（叔）父については調査中。同一地区で 54 歳の女性が発病、1 月 18 日入院、これら 3 例の検体は英国のセンターで検査中。駐在 WHO スタッフが当局を支援中。

鳥インフルエンザ。トルコの近況：1 月 30 日、英国のセンターで 21 検体中 12 検体が H5N1 陽性と確認（死亡例は全例陽性）。残る 9 例は確認検査中。

髄膜炎菌感染症。ウガンダ：05 年 12 月 28 日から翌年 1 月 23 日、同国東北部で、163 例報告。4 例がラテックステストで A 群髄膜炎菌陽性、2 例が菌培養陽性。保健省は国境なき医師団、WHO、ユニセフの支援で調査と対策立案中。

結核診療の基準(Standards)：05 年に WHO、米疾病センター（CDC）、米呼吸器学会、フランス呼吸器センター、オランダ結核基金の 5 機関で構成される結核対策支援機構が発表した国際的基準（注：基準 1 から 17 に及ぶ長文だが具体性に乏しい。世界的に重要と思われる東欧、中央アジア、途上国などの情報には全く触れていない。本邦では結核予防法による「結核予防の基準」が厚生省大臣から告示、例えば治療法に関しては平成 16 年 7 月に 3 剤または 4 剤の短期併用が定められている）（1）診断。基準 1：他に説明のつかない咳が 2～3 週間以上続くとき、結核を考える。基準 2：肺結核を疑う場合最低 2 回、出来れば 3 回喀痰鏡検検査、可能なら最低 1 回早朝喀痰検査。基準 3：肺外結核では病変部材料の鏡検、培養、病理像。基準 4：胸部 X 像で疑われた場合、喀痰の菌検査。基準 5：痰塗抹陰性で X 線像所見あり、症状ありの場合菌培養。基準 6：塗抹陰性、X 線像所見あり、症状ありで小児の場合は痰培養と胃液培養。（2）治療。基準 7：治療担当者は患者と密接な人間関係をもつこと。基準 8：HIV 感染者を含む全ての結核患者の初回治療は INH + リファンピシン + ピラジナマイド + エタンブトールで 2 か月。次の 4 か月は INH + リファンピシン（場合によっては 6 か月）。用量は国際勧告に従う。基準 9：担当者は本人の年齢、教育、社会的背景を充分考慮して治療にあたり状況に応じて DOT (Directly Observed Therapy)。注：日本の DOTs と異なり患者に直接目の前で内服させる。途上国で効果を発揮している）導入を考慮する。基準 10：効果判定：肺結核では 2 か月の初回治療後

2 回連続、さらに 5 か月後と治療終了時喀痰検査。5 か月後の喀痰検査で陽性の場合、無効例として基準 14、15 へ。肺外結核と小児では臨床経過で判定。基準 11：全患者について検査、投薬、経過などの記録を残す。基準 12：H I V 侵淫度の高い地区では全結核患者に H I V 検査を実施する。基準 13：結核と H I V 混合感染者では抗 H I V 剤適応を考慮して専門家に相談する。基準 14：耐性菌に関し、全ての患者で治療歴と地域の耐性発生状況について注意する。耐性検査を実施する。基準 15：薬剤耐性が判明したら感受性薬剤を 18 か月投与する。(3) 公衆衛生。基準 16：結核にハオリスクな 5 歳以下小児とエイズ患者の予防が重要。基準 17：担当者の届出と行政の対応が重要。

1 月 27 日～2 月 2 日届出。コレラ：マラウィ、モザンビーク、ルワンダ、サントメプリンシペ、トーゴ、タンザニア、ザンビア。

2006 年 2 月 10 日 (81 巻 6 号) <http://www.who.int/wer/2006/wer8106/en/index.html>

鳥インフルエンザ。インドネシアの近況：2 月 6 日保健省発表。新規人 H5N1 感染確認者 4 例 (死亡 2)。1)22 歳男性、1 月 26 日死亡。東ジャカルタ。市場店主。2)15 歳男、2 月 1 日死亡、西ジャワ。3)9 歳女、西ジャワ。1 月 19 日入院、治癒。これら 3 例とも発病前近隣に鶏死の大量発生あり。4)5 歳男、10 月に発病、治癒。以前確認された 20 歳男性の弟。病鶏と直接接合あり。同国の累計 23 例 (死亡 16)。

鳥インフルエンザ。イラクの近況：2 月 7 日、国際専門家チームが北部の鳥 H5N1 多発地区で調査開始。1)ウイルス検査は現在エジプト・カイロの WHO 検査室が担当。材料搬送法検討とイラク国内における検査室整備が急務。2)養鶏業者の保障。3)人感染疑い例の発見と治療、材料収集は良好で隔離病棟検討中。従来報告された死亡例 2 例の他に死亡者 2 例。1 例は確認報告者の甥で 39 歳。他の 1 例は南部の 13 歳男、2 月 5 日死亡。ペットの鳥が発病前に死亡している。採取検体検査中。

髄膜炎菌感染症。スーダン：06 年 1 月 1～31 日。疑い例 136 (死亡 15)。髄液 1 検体からラテックステストで A 群髄膜炎菌陽性。他の材料と共に首都ハルツームの検査室で検査中。反政府連邦保健省は WHO やユニセフなど国際機関の支援の下に実態調査とワクチン緊急接種実施中。

赤痢ワクチンの近況：WHO による赤痢ワクチンの国際会議が 96 年に開催。本報はその後の赤痢ワクチンの開発に関する総説である。(1) 背景：途上国を中心に世界規模で 5 歳以下小児の下痢による死は年間 100 万人と推定されており、赤痢が原因として重視されている。赤痢患者の推定数は不明であるが安全で有効なワクチン開発は重要である。(2) 現在試作ワクチンとして弱毒経口生ワクチンと不活化経口ワクチンがある。弱毒ワクチン：志賀菌由来の S C シリーズ。a)米国における S C 602 株治験：58 名の志願者。約 10% に投与後発熱と下痢。90% に 7 日目の便でワクチン株排泄 (注：以下それぞれの治験報告の具体的数字は記載されておらず結果概略だけ)。1 回接種後強毒株によるチャレンジに抵抗性を示した。b)バングラデシュの S C 602 株治験：8～10 歳小児群と 12～36 か月小児群。接種株は腸管に定着せず便に排泄なし。c) S C 99 株。ロンドンで第 1 相治験：28 名の成人志願者。副作用はほとんどなく腸管定着率良好。d) S S R W 株、イスラエルで第 1 相治験：接種者から菌排泄あり、同居接触者に伝播なく副作用なし。e)フレキシネル菌由来の C D V シリーズ。C D V 1203 株は発熱、下痢を認め、C D V 1207 では副作用なく、

菌数増加で免疫原性良好。f)フレキシネル、ゾンネ、志賀各菌の弱毒株混合ワクチンが検討され、弱毒生腸チフスワクチンによる赤痢予防がマウスレベルで検討されている。経口不活化ワクチン：a)多糖体結合ワクチン：1～4歳の小児で安全性と免疫原性が認められており、イスラエル新兵のゾンネ菌由来多糖体結合ワクチン試験接種で予防効果74%、誘導抗O抗原IgG抗体値は自然感染後よりも2年間は高かった。b)フレキシネル菌、ゾンネ菌由来のO抗原特異的多糖類蛋白による試作品の青年を対象とした治験では免疫反応は良好で抗体持続も4～5年間は良好であった。リボゾームワクチン：リボゾームにO抗原付着。非経口接種で粘膜局所免疫獲得。現在精製と量産が検討されている。勧告：サーベイランス、製造法の研究支援、世界共通のワクチン開発、志賀菌の病原性と免疫に関する研究支援などがあげられる。

人アフリカトリパノソーマ症（HAT、別名睡眠病。サハラ南縁諸国に常在、ツェツェ蠅が媒介する原虫感染症。長い潜伏期の後、発熱、頭痛、関節痛、異常行動、嗜眠や幻覚など意識障害、昏睡。放置すれば死亡率は高い）の検査室診断試薬開発を非政府組織の財団（新診断法改良基金FIND）がWHOの支援で06年6月から着手すると発表。

2月3～9日届出。コレラ：マラウィ、タンザニア、ジンバブエ、日本（輸入例）。

2006年第6週(平成18年2月6日～平成18年2月12日)

[illegible]

愛知県感染症情報

2006年第6週(平成18年2月6日～平成18年2月12日)

愛知県衛生研究所

[illegible]

愛知県感染症情報

2006年第1週～第6週(平成18年1月2日～平成18年2月12日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	256	35,275	172	1,556	8,697	1,838	247	132	593	2	6	16	3	897	5	106	1	4	27	0	0
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	231	28,129	134	1,128	5,583	1,453	153	98	466	1	4	14	3	777	3	79	1	4	27	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	25	7,146	38	428	3,114	385	94	34	127	1	2	2		120	2	27					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	42	1,640	25	107	281	96	12	5	18			1		49		3			9		
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1	1,375		23	564	83	10		11					13		4			1		
尾張中部	師勝	4	4	1	1			740		65	149	28	1		15					28		4					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	4	2,316	7	62	390	151	19	4	43	1				49		9			6		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	42	2,427	30	128	439	144	25	7	38			4		172		9	1	3			
	江南	6	6	1	2		21	1,101	15	109	409	79	6	1	49			3	1	54		4					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	8	1,342	4	64	159	97	29	15	46			1	2	9		6					
	知多	7	7	2	2		31	1,657	8	58	370	125	2	15	38			1		22		3					
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	9	2,462	5	71	341	109	9	4	54		4			28							
	衣浦東部	13	13	2	4	1	18	4,414	14	154	630	149	14	5	38					50		11					
	西尾	5	5	1	2	1		1,171		29	321	86	2	1	22					23	3	4			1		
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	15	3,810	6	74	641	81	5	3	36			3		32		12		1	5		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	24	2,192	7	92	469	107	4	8	26			1		142		3			3		
	豊川	9	8	1	2	1	16	1,185	13	92	420	118	14	30	31					103		7			2		
東三河北部	新城	2	2			1		297					1		1					3							

* RS報告数(5週分)の訂正あり

愛知県感染症情報

2006年第1週～第6週(平成18年1月2日～平成18年2月12日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RS ウイルス感 染症	インフル エンザを 除く。(高 病原性鳥)	咽頭結 膜熱	A群溶血 性レンサ 球菌咽頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	風 し ん	ヘル パン ギー ナ	麻 し ん (成人麻 しんを除 く。)	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラミ ジア肺 炎 (オウム 病を除く 。)	成 人 麻 し ん
計	231	28,129	134	1,128	5,583	1,453	153	98	466	1	4	14	3	777	3	79	1	4	27	0	0
～6ヶ月	113	199	3		86	33		2	22			2		1							
～12ヶ月	44	393	11	2	407	98	3	5	263					6		1					
0歳																	1		1		
1歳	45	1,363	30	25	927	249	39	3	174			2	2	28					4		
2歳	21	1,541	17	39	541	294	45	2	6			2	1	70		4					
3歳	2	1,591	20	115	505	246	17	9				1		104		1			2		
4歳	3	2,203	20	202	470	226	20	24	1			2		156	1	3		1	2		
5歳	3	2,440	11	237	383	150	10	14						132		1					
6歳		2,158	8	156	293	76	8	14		1		3		107		4					
7歳		1,931	4	101	252	33	2	6				1		72	1						
8歳		1,572	2	97	191	14	3	6						39		2					
9歳		1,329	2	43	137	13	2	8						21							
5歳～9歳																		3	10		
10歳～14歳		3,139	2	73	415	11	3	4				1		23		4			4		
15歳～19歳		1,089	1	6	120	3								1		2					
20歳～			3	32	856	7	1	1			4			17							
20歳～29歳		2,033													1	12					
30歳～39歳		2,537														16					
40歳～49歳		1,123														12			1		
50歳～59歳		693														7			1		
60歳～69歳		360														8			1		
70歳～																2					
70歳～79歳		266																	1		
80歳以上		169																			

* RS報告数(5週分)の訂正あり